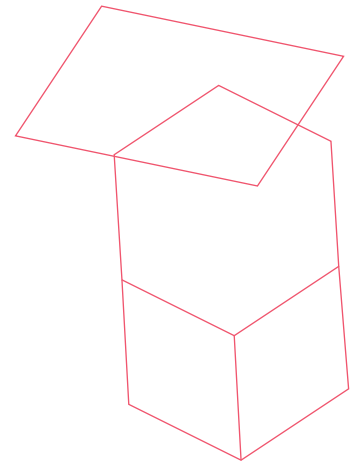


データレディネス。 これが次の大きな課題です。

柔軟でスケーラブルな環境は整っていますか？

私たちはデータが飽和した世界に住んでいます。管理しなければならないデータは、その量の多さだけでなく、フォーマット、ストレージ、ソースと多岐にわたっています。企業はそのデータの大洪水を制御するため、リアルタイムのデータアクセスを保証できる柔軟でスケーラブルなデータ管理ソリューションを必要としています。クラウドデータソリューションはアクセス性を向上させますが、組織は、シンプルなオペレーション、リスクの軽減、生産性の向上を実現できるデータソリューションも求めています¹。これは課題です。この要求を満たすには、データを容易に移動、管理、リカバリ、把握できる統合された包括的データ管理アプローチが必要です。これにより最適なビジネス結果を得ることができます。



Commvaultは、次の3つの目標を達成することを可能にします: 1) 複数のクラウド間で責任あるデータ管理をすること。2) 適切なレベルのリカバリレディネスを確保すること。3) モダン データ インフラストラクチャを最適化すること。これにより、今日のそして将来のクラウドおよびデータ環境のメリットを最大限に活用することができます (図1)。

責任あるクラウド利用: 意識的な選択をする

クラウド環境は、ストレージとコンピュートに、比類のない俊敏でコスト効率の高いインフラストラクチャを提供します。しかしながら、そのメリットを完全に利用するには、“責任あるクラウド利用”を実践する必要があります。まずは目標を明確にします。そして、データの移行前と移行後のデータポータビリティと保護のために意識的な選択を行います。次に、目標を達成するためにデータを準備しステージングします。

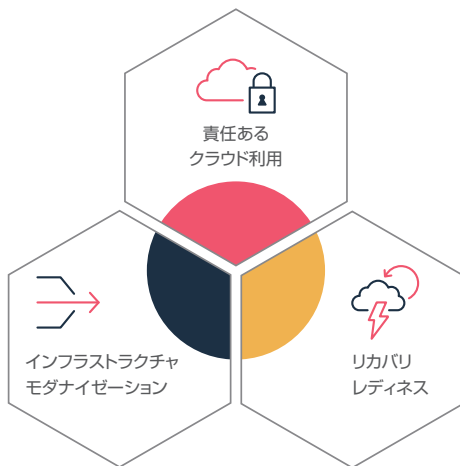


図1: 包括的データ管理の目標

責任を持ってクラウドデータを管理する場合、グローバルなデータの管理の複雑さを軽減しながらも、データ全体の可視化、一貫性、アクセス性、移行の容易さ、そしてセキュリティを向上することができる賢明で思慮深い選択をする必要があります。これにより、優れた分析結果と、より良いビジネス洞察が得られます。

クラウドから最大限のビジネス価値を引き出すには、移行前の発見フェーズが大切です。所有しているデータを評価し、インデックスを作成し、クリーンアップしてから、そのデータの保存場所とその理由を決定します。もしかすると、優先して移行対象としてステージングすべき (または完全に捨てるべき) サイロ化された部署やリージョンのデータが見つかるかもしれません。

少しの発見作業には大きな見返りがあります。例えば、ある大規模な大学では、大量のデータが移行対象となるため、最初はそのクラウド移行プロジェクトを3ヶ月と判断していました。ところが、いったんこの大学がCommvaultとプロジェクトを開始し、ニーズを明確にし、データの見極めと準備を行ったら、わずか13日でデータ移行とステージングを完了することができました。

リカバリレディネスの確保: 広く深い対応について

災害対策計画は、生命保険のようなものです。それを使う必要がないのが望ましいですが、データにアクセスできなくなればビジネスが停止するので、包括的なデータリカバリプランは必要です。そして、クラウド環境を利用するという決定と同様に、災害対策計画の選択には、想像以上に多くの考慮すべき点があります。

策定するプランは、貴重なデータがどこにあってもアクセスできるよう広く深く機能する必要があります。そして、中央のサーバーや組織全体で使用されているアプリケーションから、ラップトップのハードドライブ、さまざまなメディア形式のファイル、サプライチェーン管理チームや製品開発チームで使用されているような専門的なアプリケーションまで網羅する必要があります。

真に安心できるのは、包括的で継続的に準備が整ったリカバリ計画を立てることです。自然災害、データ侵害、ランサムウェア攻撃に対処する際、最後に行くことは、どのデータをどの順番でリカバリする必要があるかを判断することです。“リカバリ レディネス（復旧の準備）”とは、リカバリの段階をドキュメント化し、自動化し、予測可能であることを意味します。優れたリカバリ レディネス ソリューションは下記の通りです：

- 優先順位をつけ、ミッション クリティカルなデータを最初にリストアする
- システム停止を最小限に抑え、チームのダウンタイムを短縮または排除する
- 複数のデータ階層（ファイル、アプリケーション、エンドポイントなど）からのリカバリが可能
- データの保護とシームレスなリストアが行える柔軟で使いやすい自動化ツールが実装されている

インフラストラクチャのモダナイズ: 最大限ではなく、不可欠を考える

クラウドは、データ管理をシンプルにすると考えられています。しかしながらクラウド ストレージは、さまざまなプライバシー、ガバナンス、データ主権、パフォーマンス上の理由から、オンプレミス ストレージの完全な置き換えではなく、多くの場合、オンプレミス ストレージへの追加ストレージとして使用されます。この2種類のストレージの混在は、多くの企業が直面する複雑さをさらに悪化させます。

オンプレミスでのデータ増加に対処する場合、“スケールアップ”の罨をどのように回避しますか？ 答えは、必要なものだけ購入する、それだけのことで。簡単そうに聞こえますが、例えば、3つの買い物リストを持ってお店に行ったのに、“いつか必要かもしれない”ものをたくさん買ってしまったことはありませんか？ このような事態は避けなくてははいけません。ビジネス パートナーと協業し、インフラストラクチャとITスタッフを、具体的な共有ビジネス ニーズと目標に合致させる必要があります。

しかし、もしビジネス戦略が変わった場合はどうでしょうか？ 結局、日々新しい機会が生まれます。その時、データ管理ストラテジーを、そしておそらくはインフラストラクチャも変える必要があります。しかしながら、データ管理と保護ソリューションは単にデータ ストレージの問題に対処するだけでなく、広範なビジネス目標に役立つものであることを認識してください。特に、こうしたソリューションには下記3つの機能が必要です。

1. 予測可能性 – パフォーマンス、規模、コストに対する期待値を明確にしておくことは、提供されているものに反応するのではなく、変化を促す情報に基づいた選択を行うのに役立ちます。
2. 強力なシンプルさ – 実装、管理、サポートしやすい柔軟なインフラストラクチャは、時間と費用を節約し、ビジネスにプラスの影響を与えるプロジェクトに取り組むことを可能にします。
3. 単一の統合プラットフォーム – ひとつのデータ保護プラットフォームは、データの移動、管理、リカバリに掛かる時間を短縮します。これは特に、データ リカバリの際に重要です。

これらの基準をビジネス戦略と組み合わせて使用すれば、データ管理プラットフォームをモダナイズする際、“スケールアウト型の”思考になっていくはずで。

次に備える

多くの組織は“クラウドへたどり着く”ことが主目的になっていますが、真のレディネスは、環境全体のデータ管理に対する包括的アプローチによって決まります。これは、戦略とビジネス ケースの明確化から始まり、包括的なデータ リカバリ プランを組み込み、インフラストラクチャのモダナイゼーションを継続的なプロセスと見なします。次の10年間に生成されるデータ量やフォーマットは予測できないかもしれませんが、チャンスをつかむのに必要なデータを何でも使えるよう、柔軟性と拡張性を高いレベルに維持することは可能です。世の中の変化に関係なく、オペレーションを改善し、ビジネス目標を達成できること。これが本当のデータ レディネスの意味です。

さらに詳しい情報は、www.commvault.co.jp/products/commvault/complete-backup をご覧ください。